

## 宮城県支部

### 食の安全安心を保障する生産・加工・流通・小売の現状と課題

#### —大豆とその加工品 豆腐を中心として—

わが国の食について、量の確保と安全性が脅かされている時代が到来している。さまざまな要因のなかで、経済性の追求による品質軽視の食品生産と流通、農業の衰退による外国への食糧依存度の高まり、人口増加による需要の増大と農産品の非食糧利用による国際的な食糧不足である。

特に大豆は重要な穀物でありながら、自給率は5%程度と極端に低く、輸入に頼らざるを得ないのが現状である。遺伝子組み換えの安全性確認が明確に判断されていない現状で、行政は国内農業振興策と並行し、大豆の国内自給率向上を推進している。

本研究は、大豆の農業生産から豆腐という製品製造までの各過程を調査した。調査を行うなかで、それぞれの段階での取り組みや課題を抽出し、今後、個性ある豆腐店が、いきいきとした事業活動を行い、国民に安全安心、かつ豊かで多様な消費生活を送り届ける方策を検討した。

第1章では国内外の食糧事情について紹介し、食品に対する安全性の考え方を紹介した。次に日本の食料自給率の低下について考察し、宮城県で期待される大豆についてテーマとして取り上げた経緯を紹介し、世界的な大豆の需給状況と見通しについて触れた。

第2章では宮城県の大豆に関する施策と国産大豆の近年の生産動向について紹介し、宮城県地域特産品認証事業と大豆に関する助成措置の内容と生産技術対策を紹介した。

第3章では豆腐業界の現状を調査し、大手豆腐製造事業者の調査内容と商品の安全性に関する技術改善等を紹介し、課題と展望について考察した。同時に、小規模豆腐製造事業者の活動に触れ、独自の製造や販売手法を採用し積極的に経営に取り組んでいる状況を紹介した。

第4章では大豆栽培農家の生産状況について触れ、宮城県内の転作事業者である大豆生産農家のヒアリング調査内容を紹介・考察した。生産者が大豆栽培を行うに至った経緯から、こだわりをもった生産方法の紹介をし、農業についての課題と課題解決に向けた提案を行った。

第5章では宮城県における大豆流通の実態について紹介し、大豆流通の担い手の役割やルールの変更や各流通事業者の特徴と課題について調査分析を行った。

第6章では、総括として、大豆に関する、農業生産の現状を再確認し、農業と製造業連携のさまざまな取り組みを紹介し、農業や豆腐製造業の成長性の高い安定した経営推進について提案を行った。

補遺は最近の食品偽装問題の紹介と考察を行い、食の安全性をめぐる事件について資料をまとめ、事件概要を時系列で把握確認するための資料とした。

本報告書は8名のメンバーが約半年間、12回の会合を重ね、農業法人や行政諸機関、大豆流通事業者、大小の豆腐メーカー等へのヒアリング、実地見学を実施してまとめた調査・研究報告結果であり、添付資料を含め合計72ページの報告である。